



2023年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年11月8日

上場会社名 京福電気鉄道株式会社
コード番号 9049 URL <https://www.keifuku.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大塚 憲郎
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理部長 (氏名) 藤木 斉

TEL 075-841-9385

四半期報告書提出予定日 2022年11月11日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	6,609	21.6	805	384.1	881	155.3	505	48.3
2022年3月期第2四半期	5,435		166		345		340	

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 581百万円 (41.0%) 2022年3月期第2四半期 412百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
2023年3月期第2四半期	254.38	
2022年3月期第2四半期	171.53	

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を前連結会計年度の期首から適用しており、2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	19,998	8,674	39.1
2022年3月期	20,152	8,096	36.3

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 7,816百万円 2022年3月期 7,312百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
2022年3月期		0.00		0.00	0.00
2023年3月期		0.00			
2023年3月期(予想)					

(注) 2023年3月期の配当予想は未定であります。

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

2023年3月期の連結業績予想につきましては、現時点で合理的な予想数値の算定を行うことが困難であるため未定としております。今後、業績予想の開示が可能となった段階で、速やかに公表いたします。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	2,000,000 株	2022年3月期	2,000,000 株
期末自己株式数	2023年3月期2Q	12,337 株	2022年3月期	12,276 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	1,987,691 株	2022年3月期2Q	1,987,829 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

2023年3月期の連結業績予想につきましては、現時点で合理的な予想数値の算定を行うことが困難であるため未定としております。今後、業績予想の開示が可能となった段階で、速やかに公表いたします。なお、業績予想に関する事項は2ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(四半期連結損益計算書)	5
(四半期連結包括利益計算書)	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(追加情報)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間は、国内の経済活動に回復の動きが見られたものの、インフレやエネルギー不足等による世界経済の減速、急激な円安や物価上昇など国内経済の下振れリスクも顕在化するなど、引き続き先行き不透明の厳しい状況下で推移しました。

当第2四半期連結累計期間の当社グループの営業収益は6,609百万円（前年同期比1,174百万円、21.6%増）となり、営業利益は805百万円（前年同期比639百万円、384.1%増）となりました。これに営業外収益及び営業外費用を加減した経常利益は881百万円（前年同期比536百万円、155.3%増）となり、特別利益及び特別損失ならびに法人税等を加減し、非支配株主に帰属する四半期純利益を控除した親会社株主に帰属する四半期純利益は505百万円（前年同期比164百万円、48.3%増）となりました。

次に、セグメント別の経営成績をご報告いたします。

① 運輸業

鉄軌道事業、バス運送事業、タクシー事業ともに、新型コロナウイルス感染症拡大以前の売上水準を依然大幅に下回る、厳しい経営状況が続いています。

こうした中、嵐山線は7月～10月の期間、人気アニメとのコラボレーションイベント「鬼滅の刃 京ノ御仕事 参（きょうのおしごと さん）」を東映太秦映画村と共同で開催、ラッピング電車の運行や四条大宮駅・嵐山駅をラリーポイントとするスタンプラリーの実施などにより、情報発信と利用促進に取り組みました。京都バス(株)は、各路線で旅客数が増加、また本年3月に開始した京都市バスとの共同運行路線の収入も寄与、増収となりました。京福バス(株)は、生活路線を中心に需要の回復傾向がみられましたが、観光路線の回復は鈍く、高速バスも需要低迷により東京線・大阪線で運休が継続しています。

以上の結果、運輸業の営業収益は3,121百万円（前年同期比531百万円、20.5%増）となり、営業損失は130百万円（前年同期営業損失453百万円）となりました。

② 不動産業

不動産販売事業におきましては、福井市足羽・新保で建売住宅を販売するなど、販売件数の増加により増収となりました。

不動産賃貸事業におきましては、「BOAT RACE（ボートレース）三国」では、プレミアムGIレース「マスターズチャンピオン」の開催などにより増収となり、居住系賃貸物件の賃貸収入も京都・福井とも堅調に推移しました。(株)京福コミュニティサービスは、賃貸収入の更なる増収のため、8月に福井市福1丁目の賃貸住宅4棟・24戸を土地とともに取得、「Kフォート和田東」に続く同社の賃貸住宅シリーズと位置づけ「Kフォート福」と名付けました。

以上の結果、不動産業の営業収益は2,766百万円（前年同期比395百万円、16.7%増）となり、営業利益は809百万円（前年同期比168百万円、26.4%増）となりました。

③ レジャー・サービス業

嵐山駅はんなり・ほっこりスクエアや映画のまちの駄菓子売り場 映菓座では、イベント「鬼滅の刃 京ノ御仕事 参」を嵐山線とともに開催、関連する商品の販売や施設装飾など、集客と増収に取り組みました。

8月からの福井県内の豪雨によるJR北陸線や北陸自動車道等の寸断等で、三国観光ホテル、越前松島水族館も影響を受けましたが、販売活動・情報発信の結果、増収となりました。ホテル京福福井駅前は、一般の利用客増加に加え、北陸新幹線工事関係者など連泊利用者の獲得により増収となりました。

以上の結果、レジャー・サービス業の営業収益は815百万円（前年同期比245百万円、43.0%増）となり、営業利益は125百万円（前年同期営業損失21百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の資産は、減価償却による固定資産の減少などにより、前連結会計年度末に比べ154百万円減少し、19,998百万円となりました。負債は、未払金の支払や借入金の返済などにより、前連結会計年度末に比べ732百万円減少し、11,323百万円となりました。純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ578百万円増加し、8,674百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月11日の「2022年3月期 決算短信」で公表いたしましたとおり、2023年3月期の通期の連結業績予想につきましては、現時点で合理的な予想数値の算定を行うことが困難であるため未定としております。今後、業績予想の開示が可能となった段階で、速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,719	1,823
受取手形及び売掛金	1,059	1,174
販売土地及び建物	111	36
商品及び製品	17	21
仕掛品	9	0
貯蔵品	45	43
前払費用	30	39
その他	895	718
貸倒引当金	△4	△4
流動資産合計	3,883	3,852
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	9,653	9,457
機械装置及び運搬具(純額)	1,189	1,162
土地	3,471	3,593
リース資産(純額)	806	750
建設仮勘定	53	115
その他(純額)	264	234
有形固定資産合計	15,438	15,312
無形固定資産	229	233
投資その他の資産		
投資有価証券	288	277
繰延税金資産	55	70
その他	258	251
貸倒引当金	△1	0
投資その他の資産合計	600	599
固定資産合計	16,268	16,145
資産合計	20,152	19,998

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	48	61
短期借入金	3,550	3,458
リース債務	144	142
未払金	882	542
未払法人税等	337	364
未払消費税等	121	182
賞与引当金	202	211
その他	422	438
流動負債合計	5,710	5,402
固定負債		
長期借入金	4,195	3,860
リース債務	730	671
長期未払金	106	80
繰延税金負債	727	717
役員退職慰労引当金	24	18
退職給付に係る負債	269	277
その他	291	294
固定負債合計	6,345	5,920
負債合計	12,055	11,323
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	299	299
利益剰余金	5,952	6,458
自己株式	△20	△20
株主資本合計	7,231	7,737
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	81	79
その他の包括利益累計額合計	81	79
非支配株主持分	784	858
純資産合計	8,096	8,674
負債純資産合計	20,152	19,998

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業収益	5,435	6,609
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	5,217	5,756
販売費及び一般管理費	51	47
営業費合計	5,268	5,803
営業利益	166	805
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	5	6
助成金収入	182	78
雑収入	19	14
営業外収益合計	207	100
営業外費用		
支払利息	26	23
雑支出	1	0
営業外費用合計	28	24
経常利益	345	881
特別利益		
補助金収入	99	38
移転補償金	—	5
固定資産売却益	3	4
固定資産受贈益	170	—
受取保険金	9	—
特別利益合計	282	47
特別損失		
固定資産除却損	2	11
投資有価証券評価損	1	9
その他	0	—
特別損失合計	4	21
税金等調整前四半期純利益	623	908
法人税、住民税及び事業税	174	351
法人税等調整額	47	△27
法人税等合計	222	324
四半期純利益	401	583
非支配株主に帰属する四半期純利益	60	77
親会社株主に帰属する四半期純利益	340	505

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	401	583
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11	△1
その他の包括利益合計	11	△1
四半期包括利益	412	581
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	352	504
非支配株主に係る四半期包括利益	60	77

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	2,577	2,314	543	5,435	—	5,435
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	13	55	27	95	△95	—
計	2,590	2,370	570	5,531	△95	5,435
セグメント利益又は損失(△)	△453	640	△21	165	0	166

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額0百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	3,110	2,717	781	6,609	—	6,609
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	11	48	34	94	△94	—
計	3,121	2,766	815	6,703	△94	6,609
セグメント利益又は損失(△)	△130	809	125	804	0	805

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額0百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。